

登記簿の使い方色々

会社が融資を受ける際には、不動産（会社所有 or 役員所有）を担保に抵当権設定をしている場合が多い事から、不動産登記簿は取引先の信用調査を行う上で有効な資料とされています。

「表題部」を見る事で場所が特定できますので、その場所の公示価格や実勢価格を調べておく事で担保価値の目安となります。

また、建物の構造もわかりますし「甲区（所有権関係、権利関係）」を見る事でその不動産の入手方法もわかるようになっています。（相続・競売・売買 etc）

また「乙区」を見る事で会社の資金調達の状況もわかるようになっています。

- 1、 抵当権であれば、抵当権設定額をみます
- 2、 根抵当権であれば極度額をみます
- 3、 その不動産の時価と比較してどの程度設定しているのかをみます

目安としては、目一杯設定している場合には資金繰りが苦しいと判断できますし、銀行以外から、担保設定が入っている場合には資金繰りが苦しいと判断できます。

一度に複数から担保設定が入っている場合には注意が必要です。

このように登記簿を見ることで色々な情報を取得する事ができます。

今後、法人他社とやりとりをしていく事もあるかと思いますので、必要に応じて取得する事をお勧めします。